研究・産官学連携 2025

（教員研究紹介冊子）

中部学院大学

中部学院大学短期大学部

地域連携推進センター

本書の利用方法について

①　共同研究などのテーマ・教員を探す

各種検索方法で共同研究・受託研究を希望される分野

または教員をお選びください。

②　お問い合わせ

窓口の地域・産学連携課へ

お電話・メール・FAX にてお気軽にお問い合わせください。

③　ご案内

ご依頼の内容に応じて、適切な教員をご紹介いたします。

④　両者による相談開始

中部学院大学・中部学院大学短期大学部

地域連携推進センター（地域・産学連携課）

TEL：0575-46-7158

FAX：0575-24-9432

E-mail：chiiki@chubu-gu.ac.jp

目次

P 2　学部・学科別検索

P 4　教員名検索

P 6　キーワード検索

P11　教員・研究紹介

◆学部・学科別検索

人間福祉学部　人間福祉学科	
高木　総平	-１２-
藤岡　孝志	-１２-
飯尾　良英	-１３-
大藪　元康	-１３-
宮嶋　淳	-１４-
佐甲　学	-１４-
福地　潮人	-１５-
平野　華織	-１５-
水野　友有	-１６-
加藤　大輔	-１６-
森田　直子	-１７-
名倉　弘美	-１７-
打保　由佳	-１８-
竹村　忠憲	-１８-
兼松　博之	-１９-
手島　浩司	-１９-
渡辺　明夏	-２０-
村上　秀和	-２０-
教育学部　子ども教育学科	
小林　直樹	-２２-
西垣　吉之	-２２-
山田　丈美	-２３-
下内　充	-２３-
林　美里	-２４-
新井　謙司	-２４-
益川　優子	-２５-
八桁　健	-２５-
梅田　裕介	-２６-
加藤　寛人	-２６-
看護リハビリテーション学部　理学療法学科	
大森　正英	-２８-
千鳥　司浩	-２８-
三上　章允	-２９-
井村　保	-２９-
清水　大輔	-３０-
鵜飼　建志	-３１-
三川　浩太郎	-３１-
笠野　由布子	-３２-
菅沼　惇一	-３２-
大竹　康平	-３３-
松村　佑介	-３３-
山本　晨平	-３４-
看護リハビリテーション学部　看護学科	
木下　幸子	-３５-
木村　恵子	-３５-
植松　勝子	-３７-
宮田　延子	-３７-
田中　耕	-３８-
留田　由美	-３８-
林　久美子	-３９-
野田　明敬	-３９-
岡本　千尋	-４０-
山口　奈都世	-４０-
スポーツ健康科学部　スポーツ健康科学科	
肥後　睦輝	-４１-
中川　雅人	-４１-
水野　かがみ	-４２-
有川　一	-４２-
浅田　訓永	-４３-
鈴木　壮	-４３-
後藤　健太	-４４-
坂本　太一	-４４-
東海林　沙貴	-４５-
川西　司	-４５-

短期大学部　幼児教育学科	
杉山　祐子	- 4 7 -
菊池　啓子	- 4 7 -
岡田　泰子	- 4 8 -
西垣　直子	- 4 8 -
村田　泰弘	- 4 9 -
熊谷　亨子	- 5 0 -
倉畑　萌	- 4 9 -
小椋　優作	- 5 0 -
短期大学部　社会福祉学科	
横山　さつき	- 5 2 -
高野　晃伸	- 5 2 -
後藤　裕子	- 5 3 -
海老　諭香	- 5 3 -
枡井　彩喜恵	- 5 4 -
吉藤　郁	- 5 4 -
留学生別科	
西澤　萌希	- 5 6 -
地域連携推進センター	
野方　円	- 5 8 -

◆教員名検索

あ行

浅田　訓永　-４３-	新井　謙司　-２４-	有川　一　-４２-
飯尾　良英　-１３-	井村　保　-２９-	植松　勝子　-３６-
鵜飼　建志　-３１-	打保　由佳　-１８-	梅田　裕介　-２６-
海老　諭香　-５３-	大竹　康平　-３３-	大嶽　昇弘　-３０-
大森　正英　-２８-	大藪　元康　-１３-	岡田　泰子　-４８-
岡本　千尋　-３８-	小椋　優作　-５０-	

か行

笠野　由布子　-３２-	加藤　大輔　-１６-	加藤　寛人　-２６-
兼松　博之　-１９-	川西　司　-４５-	菊池　啓子　-４７-
木下　幸子　-３５-	木村　恵子　-３５-	熊谷　亨子　-５０-
倉畑　萌　-４９-	後藤　健太　-４４-	後藤　裕子　-５３-
小林　直樹　-２２-		

さ行

坂本　太一　-４４-	佐甲　学　-１４-	清水　大輔　-３０-
下内　充　-２３-	菅沼　惇一　-３２-	杉山　祐子　-４７-
鈴木　壮　-４３-		

た行

高木　総平　-１２-	高野　晃伸　-５２-	竹村　忠憲　-１８-
田中　耕　-３６-	千鳥　司浩　-２８-	手島　浩司　-１９-
東海林　沙貴　-４５-	留田　由美　-３７-	

な行

中川　雅人　-４１-	名倉　弘美　-１７-	西垣　直子　-４８-
西垣　吉之　-２２-	西澤　萌希　-５６-	野方　円　-５８-
野田　明敬　-３８-		

は行

林　久美子　-３７-	林　美里　-２４-	肥後　睦輝　-４１-
平野　華織　-１５-	福地　潮人　-１５-	藤岡　孝志　-１２-

ま行

桝井　彩喜恵　-５４-	益川　優子　-２５-	三上　章允　-２９-
三川　浩太郎　-３１-	水野　かがみ　-４２-	水野　友有　-１６-
宮嶋　淳　-１４-	宮田　延子　-３７-	村上　秀和　-２０-
村田　泰弘　-４９-	森田　直子　-１７-	

や行

八桁　健　-２５-	山口　奈都世　-３９-	山田　丈美　-２３-
山本　晨平　-３４-	横山　さつき　-５２-	吉藤　郁　-５４-

わ行

渡辺　明夏　-２０-		

◆キーワード検索

あ

ICT 47
ICT 教育 26
アクティビティ・ケア 52
アクティブ・ラーニング 25
朝活動 25
アスレティックトレーナー 31
アセスメント 19
遊び、あそび 26、48
アタッチメント 12
圧迫創傷 35

い

e ラーニング 41
伊勢湾台風 15
居場所 25
意味のある「やり取り」 24
医療安全 37
医療ソーシャルワーカー 19
医療的ケア 50
インクルーシブアート 16
インクルーシブ保育 50

う

ウィメンズヘルス 32
運動 42
運動遊び 50
運動学習 34
運動指導者 42
運動スキル 44
運動耐容能 33
運動発達 34

え

英語教育 23
英語の語彙 23
英語の文構造 23
疫学 36
エピソード記述 22
LA(Learning Analytics) 41
LGBTQ 37

お

音楽 48
音楽技能 47
音楽教育 26
音楽療法 28

か

介護 17
介護支援機器 52
介護職員 52
介護人材 17
介護の質 20
介護の魅力 20
介護福祉教育 53、54
介護福祉士 17、20
介護保険事業計画 13
介護予防 17
介護予防サロン 31
介護リフト 54
科学遊び 26
学習支援 53
学習者同士の関わり合い 45
学力向上施策 22
画像 AI 診断 30
家族支援 19
カタカナ語 23
家庭学習 22
管楽器教育（吹奏楽） 26
環境科学 36
看護学実習 37
看護技術 38
看護技術教育 38
看護教育 37
看護師 35
間質性肺炎 33
癌の化学予防 28

き

技術史 44
キャリア支援 54
QOL、ADL 向上 41

教育 48
教育大綱 22
教育方法論 26
教員養成 25
教科等横断的指導 23
共生・共創社会 16
協同 38
協同学習 25
協同学習モデル 45
キリスト教教育 12
筋力トレーニング 31

く

クラブハウスモデル 16
グラムシ主義 15
グループホーム 52

け

計画の策定と評価 13
継続理由 20
軽度の発達障がい児 36
建学の精神 12
健康 42
健康科学 36
健康寿命 28
健康増進 42
言語進化 24
源氏物語 23
剣道 44
現場研修 48
憲法判例の軌跡 43

こ

高機能自閉スペクトラム症 18
高血圧・循環器病予防療養指導士 38
行動調整 53
行動問題 49
高齢者 28、33、53
高齢者意欲 39
高齢者介護 17
高齢者看護 39
高齢者虐待防止 52
高齢者施設 19
国語 23
国語科教育 56
こころとからだ 41、43
心の育ち 22
子育て支援 12、15、26、47
骨盤痛 32
言葉 23
言葉づかい 56
ことばと人物像の結びつき 56
コミュニケーション 56
コミュニケーション支援 29
コミュニティ・ウェルビーイング 14

さ

災害ソーシャルワーク 14
サルコペニア 31、33
サードプレイス 45

し

COPD 31
支援者支援 12
視覚障害 50
色覚 29
ジグソー 45
自己効力感 38
自殺予防 20
自死・自殺 20
自助具開発 52
自治会・町内会 13
実習 54
社会性 49
社会性の発達 36
社会福祉協議会 14
社会変革 18
縦断的調査 50
終末期ケア 29
循環病態学 38
障がい 44
障害学 18
障がい児・者 16
障害者 19

障がい者支援施設 49
障がい者就労支援 47
障害者総合支援法 29
障害者団体 15
障がい者の地域移行 52
障害者福祉 18
生涯スポーツ 47
小学生への文字指導 24
小学校 25
小学校英語 24
小児看護 37
小児保健 37
小児リハビリテーション 34
情報科学 58
情報通信技術 26
食育 47
職業訓練性 54
職業継続 38
食生活 47
自立支援 39
神経難病 29
人骨 30
心身の発達 49
身体活動量増加 42
身体成長 34
心理サポート 41、43

す

水中運動 42
スウェーデン 15
スキンケア 35
ストーマケア 35
ストレスチェック 35
ストレスマネジメント 52
ストレッチング 31
スポーツカウンセリング 41、43
スポーツ産業 44
スポーツ史 44
スポーツ傷害 31
スポーツ臨床 43
住み慣れた地域 54
3D プリンタ 52

せ

省察 25
精神障害 20
精神障害者 16、18
精神保健福祉 16、18、20
青年期 25
世界の英語 23
積極的行動支援 49
セラピー 52
全国学力・学習状況調査 22
潜在保育者 47
戦没者遺骨収集 30

そ

早期発見・早期支援 36
総合教育会議 22
相互支援 16
相談支援 19
ソーシャルキャピタル 45
ソーシャルワーク 19、20
ソーシャルワーク理論 18
測定・評価 50
足底感覚 28、32
育てにくさ 36
尊厳 17

た

体育授業 45
体験 26
対人関係 25
ダイバーシティデザイン 37
体力 44
体力・運動能力 50
多職種連携 19、50
タレント・マネジメント 58

ち

地域 54
地域スポーツ 45
地域生活 14
地域生活支援 16

地域福祉活動計画 13
地域福祉計画 13、14
地域保健 36
知的障がい者 49
地方創生とインターンシップ 43
チャペル活動 12
中高年者 42
超音波画像診断 31
超高齢社会 28

て

データの可視化 36
デジタル工作技術 41
転倒恐怖心 32
転倒防止 28、29、30
転倒予防 32、53

と

道具使用 24
統合国家としての市民社会 15
動作分析 32
トラウマインフォームドケア 12
トレーニング 44

な

内面理解 48
仲間関係 49

に

日常生活動作 39
日本語教育 56
乳幼児 49
乳幼児の発達 48
人間関係 38
認知 44
認知症 29
認知症介護 17
認知症ケア 17、54
認知症高齢者 39
認知症対応型共同生活介護 54
認知発達 24

ね

年齢推定 30

の

脳機能 29

は

パーソン・センタード・ケア 17
バーンアウト 12
発生 42
発達支援 34
発達障害者 18
バランス 28、32
伴走者としての専門職養成 14

ひ

ピアノ 48
PDCA 13
評価 22
表現 25
表現活動 47

ふ

フィールド・リサーチ 14
フィジカルアセスメント 38
部活動地域移行 45
福祉計画 13
福祉施設（法人）経営 58
福祉用具 29、41
フレイル 31

ほ

保育実践 15
保育実践の質 22
保育者養成 50
包括的な支援体制 14
法の下の平等の意味 43
歩行 28
保護者支援 36
母子関係 24

補装具 29

ま

マイノリティ 16

み

民生委員・児童委員 14

む

無給インターンシップ 43

め

メタガバナンス 15
メンタルトレーニング 41、43

も

模倣 49

ゆ

有給インターンシップ 43

よ

用具 44
幼少年期 50
幼少連携 23、26
幼児理解 22
腰痛 32
腰痛予防 30

ら

ライフヒストリー・ライフストーリー法 18

り

離職予防 38
離職理由 20
リスクマネジメント 53
リトミック 48
リハビリテーション 33
留学生 53
両立支援 35
臨地実習指導者 37

り

離職予防 38
離職理由 20
リスクマネジメント 53
リトミック 48
リハビリテーション 33
留学生 53
両立支援 35
臨地実習指導者 37

れ

霊長類学 24
歴史 37
レクリエーション 54
レチノイド 28
連続性 48

ろ

労働災害 35
ロコモティブシンドローム予防 30

人間福祉学部

人間福祉学科

高木　総平　　TAKAKI Sohei　　**（大学院・人間福祉学研究科）（人間福祉学科）教授**

【研究テーマと内容】

① 心理療法、カウンセリングにおける宗教、宗教性の研究

ユング心理学の考えでは、心の深いところに宗教的な世界があるというもので、人間の苦悩を考える場合、そのような宗教性を考えざるを得ない。また近年取り上げられることの多い「スピリチュアリティ」ともつながっている。この点から死や自死の問題にも取り組む。

② カルト団体からの脱会や脱会後のケアー、予防活動の研究

カルト団体に入信した本人や家族のカウンセリングの経験から、カルト団体への入信者や脱会者の心理を研究、また予防の問題を追及する。

【共同研究希望テーマ・分野】

建学の精神に関して

【キーワード】

◉建学の精神　◉キリスト教教育　◉チャペル活動

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000139

藤岡　孝志　　FUJIOKA Takashi　　**（大学院・人間福祉学研究科）（人間福祉学科）教授**

【研究テーマと内容】

テーマ：子ども家庭福祉学。子ども虐待、いじめ、不登校、発達障害、支援者支援
　　子ども家庭福祉の国際比較他。

内容：子ども虐待では、アタッチメント（愛着）臨床やトラウマインフォームドケアの観点からの親支援、施設職員支援、児童相談所等の機関職員支援、里親支援などを中心に研究と実践を行ってきました。また、最近では、北欧（特に、フィンランド）のネウボラ（妊娠期からの家族支援）やバルナフス（子ども虐待への多職種連携支援、福祉・警察・医療・教育などの専門職の連携等）の国際研究に力を入れています。さらに、支援者を支援するための組織的ケア、セルフケア、グループケアなども重要な研究テーマとして取り組んでいます。

【共同研究希望テーマ・分野】

ネウボラ（妊娠期からの家族支援）やバルナフス（子ども虐待被害児への多職種連携支援、福祉・警察・医療・教育などの専門職の連携等）などについて。

職場でのバーンアウト予防や職員の定着支援事業などについて。

【キーワード】

◉アタッチメント　◉トラウマインフォームドケア　◉バーンアウト　◉支援者支援　◉子育て支援

https://researchmap.jp/FujiokaTakashi

飯尾　良英　IIO Yoshihide（人間福祉学科）教授、学部長、地域連携推進センター所長

【研究テーマと内容】

長年にわたって様々な行政福祉計画や社協計画に携わってきた経験から、各地の行政委員会に参画し地域福祉政策の立案についてアドバイスなどを行っている。とりわけ地域住民や地域住民組織の組織化、住民参加の方法、社会福祉協議会の役割、ボランティア組織の育成などについて研究を行っている。地域住民組織の役割が増す中で、住民にとって最も身近な町内会、自治会などの改革や強化など、各地の先進事例を集めて研究する計画をもっている。

【共同研究希望テーマ・分野】

自治会、町内会に注目して、加入率の低下や役員のなり手不足、行事参加者の減少など直面している課題について、原因の究明と時代にマッチした組織改革のあり方を各地の事例を収集するなかで考察したい。

【キーワード】

◉地域福祉計画　◉地域福祉活動計画　◉介護保険事業計画　◉自治会・町内会

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000188

大藪　元康　　OYABU Motoyasu　　（大学院・人間福祉学研究科）（人間福祉学科）教授

【研究テーマと内容】

テーマ：福祉計画の策定と評価のあり方について

内　容：老人福祉計画・介護保険事業計画、障害者計画・障害福祉計画など福祉計画は、PDCA サイクルで進めるとされている。計画策定については、当事者や住民代表、事業所の参画を得ながら行われるところが多い。しかしながら、評価については、庁内で行われる場合もある。また、その結果を住民に公表されているところは多くない。

福祉計画をどのように策定し、評価するかという点に関心がある。福祉計画は計画策定時に目標値を設定することが難しく、定量的な評価だけでは難しい福祉計画の策定のあり方と評価方法を検討したい。

【共同研究希望テーマ・分野】

福祉計画（老人福祉計画、介護保険事業計画、障害者計画、障害福祉計画、自殺対策計画など）の策定と評価

【キーワード】

◉福祉計画　◉PDCA　◉計画の策定と評価

https://researchmap.jp/moyabu

宮嶋　淳　　MIYAJIMA Jun　　（大学院・人間福祉学研究科）（人間福祉学科）教授

【研究テーマと内容】

テーマ：　コミュニティ・ウェルビーイングと地域支援

　ＳＤＧｓの目標達成後の人類のテーマは、一人ひとりのＱＯＬに寄与するウェルビーイングの実現です。そのために産官学共同研究によるＧＤＷの向上がめざされています。不確実で不安な 2020 年代の先にある、確かな未来を想像し創造していくために、コミュニティベースのウェルビーイングの在り方を研究したいと考えています。

　具体的な研究ターゲットとして、町内会や地縁組織、休眠宗教法人や空き家の活用、不活性化したＮＰＯ等が考えられます。これら、コミュニティのウェルビーイングに欠かせない自明の団体・組織の社会関係資本（ソーシャルキャピタル）化やその拡充、機能拡張を、地域のＤＸ化の推進により達成するための、複数年の研究を行いたいと考えています。

　そのベースは、大学の【学部】というよりも【大学院】ではないか、また、ウェルビーイング学会に集う、全国 600 名の中まではないかとも考えています。

【共同研究希望テーマ・分野】

・専門家による実践研究としての「ソーシャルワーク」研究

・一人ひとりの Life や主体形成にかかる「ウェルビーイング」をめざす研究

・地域のＧＤＷの向上のための「ウェルビーイング」研究

【キーワード】

◉伴走者としての専門職要請　◉コミュニティ・ウェルビーイング　◉地域支援　◉フィールド・リサーチ

https://researchmap.jp/miraigogo22

佐甲　学　　SAKO Manabu　　（大学院・人間福祉学研究科）（人間福祉学科）教授

【研究テーマと内容】

私自身、令和 4 年 3 月まで全国社会福祉協議会の職員として、地域福祉の推進や市区町村社協の運営支援を中心に携わり、近年は、民生委員・児童委員活動や生活福祉資金貸付事業について厚生労働省との調整に携わった。特に、2000 年の社会福祉基礎構造改革では地域福祉計画の法制化に向けた調査研究や市区町村社協の経営指針の作成を担当、東日本大震災においては災害ボランティアセンターの運営について関係者との調整業務を担当した。

こうした実務経験を活かし、今日的な地域住民と専門職が協働する地域福祉実践や、地域福祉計画・包括的支援体制の整備など地域福祉施策、地域福祉の立場からの災害ソーシャルワークについての研究の中心に据えている。

【共同研究希望テーマ・分野】

・地域生活課題の解決に向けた地域住民と専門職が協働する地域福祉実践

・社会福祉協議会（社協）の運営、民生委員児童委員活動及び民児協活動

・地域福祉施策（地域福祉計画、包括的支援体制の整備）

・災害ボランティアセンターの運営等

【キーワード】

◉社会福祉協議会 ◉民生委員・児童委員　◉包括的な支援体制 ◉地域福祉計画 ◉災害ソーシャルワーク

https://researchmap.jp/sako-mana2022

福地　潮人　　FUKUCHI Shioto　　（大学院・人間福祉学研究科）（人間福祉学科）教授

【研究テーマと内容】
社会ガバナンス論に関して、主にグラムシ主義の立場から批判的に検討を行っている。実証面では、スウェーデンの障害者福祉に関して、とくに障害者団体の社会福祉ガバナンス上の役割・機能に焦点を当てて研究している。

【共同研究希望テーマ・分野】
障害者団体や障害者施設など
なお、最近では、地域福祉政策の財政面についても関心を抱いているため、行政機関や地方議会との共同研究も希望する。

【キーワード】
◉メタガバナンス　◉グラムシ主義　◉統合国家としての市民社会　◉スウェーデン　◉障害者団体

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdogogmggy

平野　華織　　HIRANO Kaori　　（子ども教育学科）教授

【研究テーマと内容】
① 伊勢湾台風被災後の保育実践の研究
　災害等による非常時の保育実践を成り立たせる条件を明らかにするため、1959 年伊勢湾台風の被災後の保育所実践を分析する。
　伊勢湾台風に関する文献、史料を収集し、当時行われた社会福祉実践の分析を行う。
② 障がいのある保護者の子育て支援
　誰もが子育てしやすい地域社会を構築するため、障がいのある親の子育てに関する課題をインタビュー調査から明らかにしたい。
　障害のある女性の結婚・出産・子育て・セクシュアリティに関わる文献を収集する。

【共同研究希望テーマ・分野】
歴史研究

【キーワード】
◉伊勢湾台風　◉保育実践　◉子育て支援

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdogmoyggy

水野　友有　　MIZUNO Yuu　　（大学院・人間福祉学研究科）（人間福祉学科）教授

【研究テーマと内容】
インクルーシブアートを「年齢や国籍や障害の有無などの属性に関係なく、造形・身体・音楽表現が他者や社会に影響を与えるもの」と定義し、特に障がいのある人たちの表現に注目し、まちの人たちの個性を具現化することで地域の面白さや魅力を発掘し、「まちづくり」という発想ではなく、「まちの人たちの視点や思考を涵養し、人と人をつなげる」ことを目指す地域コミュニティ研究である。

【共同研究希望テーマ・分野】
・障がいのある人たちのインクルーシブアートによる地域支援
・ことばによらない人たちによる造形物に対する考古学的アプローチ研究

【キーワード】
◉インクルーシブアート　◉共生・共創社会　◉障がい児・者　◉マイノリティ

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdkgsgyggy

加藤　大輔　　KATO Daisuke　　（人間福祉学科）教授

【研究テーマと内容】
テーマ：「精神障害者の地域生活支援に関する研究 ～クラブハウスモデルの有効性とその課題に着目して～」

内 容：精神障害者の地域生活支援やリハビリテーションのあり方や具体的な援助方法について研究している。特に、1940 年代に米国で誕生した「クラブハウスモデル」に着目しており、クラブハウスに集う当事者同士のつながり（相互支援）の可能性、当事者と職員との横並びの関係性（パートナーシップ）のあり方、一般社会の中での就労支援の意義等を明らかにしたいと考えている。そのために、国内外のクラブハウス関係者と連携し、フィールドワークや実態調査等を行っている。

【共同研究希望テーマ・分野】
・精神疾患や精神障害に関する啓発　・精神障害者の働く場所の開発（就労支援）
・当事者参画（参加）型の施設運営

【キーワード】
◉精神保健福祉　◉精神障害者　◉地域生活支援　◉相互支援　◉クラブハウスモデル

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymbggsodggy

森田　直子　　MORITA Naoko　　（人間福祉学科）准教授

【研究テーマと内容】
これまでの研究は、施設における介護事故対策や認知症ケア技術（タッチケア）の検討を行ってきた。
現在は、東アジアや東南アジアの一部の地域の高齢者ケア、看取りケアと介護人材について調査をしている。
関心テーマは、① 介護人材の確保と育成およびキャリアアップのあり方
② 地域における認知症ケアの方法やシステム作り

【共同研究希望テーマ・分野】
・多様な学習背景をもつ介護士の現任教育について
・地域における認知症の人への支援について

【キーワード】
◉高齢者介護　◉認知症介護　◉介護福祉士　◉介護人材　◉介護予防

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdsgogmggy

名倉　弘美　　NAGURA Hiromi　　（大学院・人間福祉学研究科）（人間福祉学科）准教授

【研究テーマと内容】
テーマ：認知症ケアの現状と課題
近年、急速に増加しているといわれている認知症高齢者のケアに関する研究に取り組んでいる認知症の方と良好なコミュニケーションをとる為に大切なことは何か、認知症の方の尊厳を保つためにどのようなことに心がけたら良いのかを探求する。
認知症ケアの先行研究においては、認知症の人の視点や立場を尊重する考え方である「パーソン・センタード・ケア」について理論的研究が散見されるようになった。
しかし、現場の介護スタッフがその知識を持ち、実践しているかどうかの現状についての調査はほとんどみられない。そこで、「パーソン・センタード・ケア」の視点から調査し、その有効性と実践状況を把握していきたい。その過程を経て、認知症ケアの現状を把握し、認知症ケアの課題を明らかにしていく。

【キーワード】
◉認知症ケア　◉介護　◉尊厳　◉パーソン・センタード・ケア

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymiggmgkggy

打保　由佳　　UTSUBO Yuka　　（人間福祉学科）准教授

【研究テーマと内容】
①社会学分野でのライフヒストリー及びライフストーリー法を活用したインタビュー調査を行い、その手法に基づいた障害者運動家のライフヒストリーを作成すること、そして、ライフヒストリーを障害学の視点から分析し、障害者運動の背景にあった障害者差別を明らかにする研究
②障害者運動などの社会運動に焦点をあて、運動の展開過程と社会変革を目指すソーシャルワーク理論とを照らし合わせることで実践と理論との関係性について考察する研究

【共同研究希望テーマ・分野】
ライフヒストリー及びライフストーリー法に基づく質的調査から、社会変革を目指すための新たなソーシャルワーク理論を構築する研究

【キーワード】
◉ライフヒストリー・ライフストーリー法　◉障害学　◉社会変革　◉障害者福祉　◉ソーシャルワーク理論

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdbyogoggy

竹村　忠憲　　TAKEMURA Tadanori　　（人間福祉学科）講師

【研究テーマと内容】
主に精神保健福祉士の資格取得にかかる科目を担当しています。
思春期、青年期の発達障害に関する相談支援を長年行ってきました。発達障害(精神発達症)の中でも主には知的障害を伴わない自閉スペクトラム症や注意欠如多動性症の方々の相談支援が中心で、必要に迫られ隣接する精神障害の造詣を深めてきました。
そのような経験をもとに今後は、対人関係の脆弱性ゆえに二次的障害に至るメカニズムの理解、解明と事例を通した予防に対する研究をしていきたいと考えています。

【共同研究希望テーマ・分野】
発達障害(精神発達症)の社会的理解

【キーワード】
◉発達障害（精神発達症）者　◉高機能自閉スペクトラム症　◉精神障害者　◉精神保健福祉

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymkbyggoggy

兼松　博之　　KANEMATSU Hiroyuki　　**（人間福祉学科）講師**

【研究テーマと内容】
テーマ：障害者地域生活支援拠点等の支援現場における障害者の家族アセスメントの有用性

内　容：障害者の家族ケアには限界があり、いつかは社会的ケアに委ねていかなくてはならない。
厚生労働省は、障害児者やその家族が地域で安心して生活するための相談や緊急受け入れ体制として、圏域や市町村に地域生活支援拠点等の整備を進めているが、わが子を社会的ケアに委ねることに不安や葛藤を抱える親へのアプローチが課題となっている。障害者の親が、家族ケアから社会的ケアへの移行を円滑に受け容れていくために、障害者地域生活支援拠点等の支援現場における家族アセスメントの有用性等について研究している。

【共同研究希望テーマ・分野】
障害者の家族支援
障害者地域生活支援拠点における相談支援

【キーワード】
◉障害者　◉地域生活　◉相談支援　◉家族支援　◉アセスメント
https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000329

手島　浩司　　TESHIMA Koji　　**（人間福祉学科）講師**

【研究テーマと内容】
テーマ：高齢者向け住まいの管理者と医療ソーシャルワーカーとの連携に関する研究

超高齢社会のわが国において、入院をきっかけに自宅へ戻れなくなるケースは多い。退院後の行き場のない高齢者の存在は、退院支援を行う医療ソーシャルワーカーにとって厳しい状況である。厚生労働省の「ソーシャルワークに対する期待について」(2017) では、「今後ますます、ソーシャルワークの機能及びソーシャルワークの機能を果たす者が求められている。」とされている。本研究では、「高齢者向け住まいの管理者と医療ソーシャルワーカーとの連携に関する研究」をテーマにし、連携の質の向上の観点から、連携時におけるソーシャルワーク実践に関するガイドラインを作成することを目的とする。

【共同研究希望テーマ・分野】
有料老人ホームにおけるソーシャル―ワーク機能、ネットワーキング。

【キーワード】
◉医療ソーシャルワーカー　◉ソーシャルワーク　◉高齢者施設　◉多職種連携

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000334

渡辺　明夏　　WATANABE Meika　　（人間福祉学科）講師

【研究テーマと内容】

うつ病や統合失調症などの精神疾患や精神障がいは決して珍しいものではなく、身近なものです。そのため、誰もが精神疾患や精神障がいについての正しい知識を持ち、自分自身のケアや身近な人への気づき、寄り添いができるような地域社会となる必要があると考えています。また、さまざまな理由で生きづらさを抱えておられる方々に対して、専門職をはじめ地域や職場、家庭など身近な人に対してどのようなことができるのかを考えています。

特に現在は、精神保健福祉領域における援助希求やソーシャルワーク実践、自死・自殺について関心があり、研究を行っています。

・精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践
・精神疾患や精神障がいのある方への支援
・自殺予防とソーシャルワーク　　など

【共同研究希望テーマ・分野】

・自殺予防など、自死、自殺に関する内容
・精神障害の地域生活を支える支援について

【キーワード】

◉精神保健福祉　◉ソーシャルワーク　◉精神障害　◉自殺予防　◉自死・自殺

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymbkgkgmggy

村上　秀和　　MURAKAMI Hidekazu　　（人間福祉学科）助教

【研究テーマと内容】

厚生労働省は 2022 年度，約 215 万人の介護職員を 2026 年度には約 240 万人（2022 年度 +約 25 万人），2040 年度には約 272 万人（2022 年度 +約 57 万人）の確保が必要であると推定している．日本は高齢化が進み介護サービスの需要増加も見込まれ，さらなる介護職員の確保が必要であるといえる．また介護職員数を確保するだけではなく，質の高い介護サービスを提供していくという観点からは，介護福祉士の割合は高ければ高い方が望ましいとの見解が示されている．介護現場に就労する介護福祉士の割合を高めていくといった課題について研究し、多様な課題やモデルを模索し解決を目指す．

【共同研究希望テーマ・分野】

・介護現場に就労する介護福祉士の割合を高めていくといった課題について
・介護福祉士の離職理由や就労継続に関連した研究
・介護福祉士が捉える介護の魅力に関連した研究

【キーワード】

◉介護福祉士　◉離職理由　◉継続理由　◉介護の魅力　◉介護の質

https://researchmap.jp/murakamihidekazu

教育学部

子ども教育学科

小林　直樹　　KOBAYASHI Naoki　　（子ども教育学科）教授

【研究テーマと内容】

① 地方教育行政の在り方についての研究

とかく分かりにくいとか、責任の所在が曖昧だとか、臨機応変な対応できないと指摘されてきた教育委員会が、教育大綱の策定や総合教育会議の設置、また、教育長と教育委員長の一本化などを旗印に制度改革されました。その後、教育委員会にはどんな変容が見られるのか。問題があると指摘された点は解消されつつあるのかなどを明らかにします。

② 学力についての研究

国際標準としての学力を求めたり、全国学テや PISA 調査の結果を受けたりするなかで、令和の時代に求められる子どもたちの学力は「活用力」であると捉えています。そのためには授業や家庭学習はどうあるべきかについて明らかにします。

【共同研究希望テーマ・分野】

教育行政論　学力論　学校管理職養成領域

【キーワード】

◉教育大綱　◉総合教育会議　◉全国学力・学習状況調査　◉学力向上施策　◉家庭学習

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000284

西垣　吉之　　NISHIGAKI Yoshiyuki　（子ども教育学科）教授、幼稚園教諭・保育士コース長

【研究テーマと内容】

幼児教育の現場では【子どもの生活や遊びをどのような観点で評価するか】や【生活や遊びを評価する視点の質そのものを高めること】への課題を抱えている。幼稚園教育要領等の改訂等に示されている 5 領域の観点からの幼児の発達の評価に加え、「3 つの資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育って欲しい 10 の姿」、「非認知能力の育ち」など新たな評価の観点が生まれ、幼児教育の現場は幼児をどのように理解するかについて混乱が予測される。そこで、ここ数年は幼児理解の質を高める上で、新しい要領や指針に見られる幼児理解のあり方が現場に定着することを阻む要因について明らかにすると共に、保育実践の質を評価するための手立てについて研究を進めている。

【共同研究希望テーマ・分野】

テーマ：保育実践の質の評価について、幼児理解と環境構成や援助の関連について

分　野：幼児教育学、保育学、子ども学　等

【キーワード】

◉幼児理解　◉評価　◉心の育ち　◉保育実践の質　◉エピソード記述

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymiygyokggy

山田　丈美　　YAMADA Takemi　　（子ども教育学科）教授

【研究テーマと内容】

① 言葉の力の育成についての研究

言葉は、人がものを考えたり、他者とのコミュニケーションをはかったりする際の重要な役割を担っている。そのような言葉の力をどのように育成していったらよいかについて、教育面から研究している。特に語彙の観点から検討している。

② 古典教育についての研究

古くから受け継がれてきた言語文化としての古典の魅力を伝えられる授業づくりを研究している。地域の読書サークルの「源氏物語」読書会の講師も務めている。

③ 教育方法・教育課程についての研究

学校教育全体を見渡して、子どもたちが主体的に学ぶための教育方法や教育課程について研究している。近年は、教科等横断的指導をテーマとして取り組んでいる。

【共同研究希望テーマ・分野】

・国語教育　・言葉　・幼小連携　・教科等横断的指導

【キーワード】

◉言葉　◉国語　◉教科等横断的指導　◉幼小連携　◉源氏物語

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymisgigyggy

下内　充　　SHIMOUCHI Mitsuru　　（子ども教育学科）教授

【研究テーマと内容】

① 中学校英語教科書使用の文構造と語彙の調査研究

中学校教員の現場の指導効率と学生の教育効率の向上のために、小学校英語必修化以降の英語教育において理解するべき文法・語彙項目と習熟するべき技術について調査し、現場の限られた時間内でどのように高等学校以上の生の英語活動につなぐことができるかを探る。

② 発信型英語補助教材の開発

日本人が外国語としての英語を使うためにはどの程度のバイリンガル度が求められるか、「バイリンガル・1文化」で限界はあるのか、「バイリンガル・2文化」を目指すなら、どの程度英米の文化理解が求められるのか、段階的なスケールを使って見える形にしたい。

【共同研究希望テーマ・分野】

「カタカナ語検定」の導入のための基礎調査を進める予定。主に英語からの外来語を中心にその理解を深めるための言語学的知見を、漢字検定の要領に倣って、コミュニケーション効率を上げるために一般的な知識となるべくまとめたい。

【キーワード】

◉英語教育　◉英語の文構造　◉英語の語彙　◉世界の英語　◉カタカナ語

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000287

林　美里　　HAYASHI Misato　　（大学院・人間福祉学研究科）（子ども教育学科）教授

【研究テーマと内容】
ヒトに遺伝的に近い生物であるチンパンジーやオランウータンなどのヒト科大型類人猿と、ヒトの子どもの知的な発達過程を比べるという「比較認知発達」をテーマとして研究をおこなってきた。主に物を操作する能力の発達や道具使用行動に着目して、飼育下と野生の大型類人猿を研究してきた。チンパンジーは、野生でも多様な道具を使い、飼育下では階層構造をもつ物の組み合わせをおこなうことから、言語の進化的基盤を探る研究にも参与している。また、発達を支える母子関係にも注目し、ヒトの子育てについても生物学の観点から考察している。

【共同研究希望テーマ・分野】
子どもの操作遊びをとおした発達支援研究
生物学的視点を取り入れた母子支援の実践的研究

【キーワード】
◉認知発達　◉霊長類学　◉道具使用　◉言語進化　◉母子関係

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdmgigyggy

新井　謙司　　ARAI　Kenji　　（子ども教育学科）准教授

【研究テーマと内容】
子どもの言葉の学び方に寄り沿った小学校英語のあり方について検討を重ねている。特に近年は、公立小学校の外国語（英語）学習において，英語の音声に文字（語・句・単文・脈絡のある文章）を介在させた「双方向の文字学習」が，児童の英語を「読む力」の育成に効果があるかを調査・分析し、小学生の英語の文字を認識するときの特徴やそれらを「読む力」を育成するために効果のある学習方法について研究を進めている。

【共同研究希望テーマ・分野】
・小学３年生からのの英文を「読む力」の育成に効果のある指導方法について
・学年の発達段階に合わせた小学校英語の授業改善について：子どもの思考を促し、思わず英語を言いたくなる・読みたくなる・書きたくなる指導方法の追求
・「えいごリアン」の効果的な活用方法について

【キーワード】
◉小学校英語　◉意味のある「やり取り」　◉小学生への文字指導

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdygmysggy

益川　優子　　MASUKAWA Yuko　　（子ども教育学科）准教授

【研究テーマと内容】

① 青年期における居場所感に関する研究

近年、人々の居場所に関する研究が盛んに行われている。居場所とは多元・多層的な意味を持つものであるが、人との関わりによって構築されるということは多くの学術領域において共通した見解として示されている。そこで、対人関係において形成される居場所感の構成要因や条件等について研究を進めている。特に、アイデンティティの形成を始める中学生以降の青年期を過ごす者を研究対象としている。

② 効果的な協同学習の進め方に関する研究

近年、PBL（Project Based Learning）やアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）が教育方法として積極的に導入される中、小集団での互恵的な関係を基盤にした協同学習の効果が注目されている。児童・生徒が意欲的に取り組めるよう、ゲームや作成作業を活用した協同学習の進め方について研究を行っている。

【共同研究希望テーマ・分野】

・教育心理学　・学校心理学　・人間関係学

【キーワード】

◉青年期　◉居場所　◉対人関係　◉協同学習　◉アクティブ・ラーニング

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000176

八桁　健　　YAGETA Ken　　（子ども教育学科）准教授

【研究テーマと内容】

テーマ：小学校の朝活動における描画の継続が果たす役割についての研究

内　容：本研究の目的は、小学校の朝活動における継続的な描画が、児童の内面や学校生活に与える効果を調査することである。ドローイングなどの主観的素描表現は、児童各々の自在な表現を前提とし、児童の内面を端的に表出し得る活動である。また、描いた作品を自己評価し、友人と鑑賞し合うことで、自己・他者理解に繋がる活動といえよう。しかしながら、その内実についてはこれまで明らかにされてこなかった。そこで本研究では、朝活動において継続的な描画を実施している小学校と実施していない小学校のデータを比較研究することなどから、本活動の効果について探っている。

【共同研究希望テーマ・分野】

・アート　・表現　・造形遊び　・創造　・ひらめき

【キーワード】

◉表現　◉省察　◉朝活動　◉小学校　◉教員養成

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000143

梅田　裕介　　UMEDA Yusuke　　（子ども教育学科）准教授

【研究テーマと内容】

① 幼児の身近な科学への興味・関心を高める教材開発研究

幼少期の子どもは日々遊びの中で、科学的な体験を知らぬ間にしている。豊かな体験のための環境や手立ての設定、日々の生活体験の分析から、何気ない遊びの中で科学的な気付きを得る子どもの姿を捉えていく。

② 幼小連携に関する研究

よりよい幼小連携の在り方を探る研究である。単に事物への興味や関心、知識だけの接続ではなく、小学校に対する期待や憧れをいかに幼児期に育むかを重視する。

③ 子育て支援に関する研究

実際の支援現場の調査を通し、支援の在り方や教材、あるいは子の発達を捉え、親からの自立や、人間関係の発達など、多様な切り口で研究を進めたいと考えている。

【共同研究希望テーマ・分野】

・幼児期の科学的思考の発達　・幼児期の科学遊びとその実践　・幼小連携の在り方

【キーワード】

◉遊び　◉科学遊び　◉体験　◉幼小連携　◉子育て支援

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymbmyoykggy

加藤　寛人　　KATO Hiroto　　（子ども教育学科）助教

【研究テーマと内容】

「ICT を活用した音楽教育における学習効果の実践的研究」

音楽教育における ICT（情報通信技術）の導入が進む中で、技術を効果的に活用し、音楽の学びを深める方法を探ることが本研究の目的である。ICT ツールやオンラインツールを使用して、学生が音楽の基礎知識や演奏技術、音楽理論を学ぶ際にどのような学習効果が得られるかを実践的に研究します。具体的には、楽譜作成ソフトやデジタル音楽制作ツール、音量や音程を視覚化するツールを活用することによって、学生の創造力や演奏スキル、音楽的理解をどのように向上させることができるのかを研究します。

【共同研究希望テーマ・分野】

ICT を活用した教育実践、音楽教育、教育方法論

【キーワード】

◉音楽教育　◉教育方法論　◉情報通信技術　◉ICT 教育　◉管楽器教育（吹奏楽）

https://researchmap.jp/hiroto.brasstuba

看護リハビリテーション学部

理学療法学科

大森　正英　　OMORI Masahide　　（大学院・人間福祉学研究科）（理学療法学科）学部長、教授

【研究テーマと内容】

1．高齢者の健康状態に関する研究

高齢者の日常生活、健康状態等に関する研究を国内、国外で引き続き行い、健康寿命延長の要因について考察する。また、日本国内に蔓延している、超高齢社会に対する悲観論は、その大半が事実に反するものであることを明らかにしていく。日本の未来は巷で言われているほど暗いものではない。

2．音楽療法の実践に関する研究

高齢者に対する音楽療法の実践を通して、音楽療法が心身に及ぼす影響を総合的に研究し、音楽療法の技術、手法の向上を図る。

3．癌の化学予防に関する研究

レチノイド（ビタミンＡ類縁化合物）を用いた癌抑制効果の実態を明らかにし、作用機構の解明を図る。なお、レチノイドによる癌の化学予防は、癌細胞を殺傷するものではなく、生体の持つ生理作用機構を利用、または強化することにより、癌細胞の発生を抑制し、正常細胞への転換を促そうとするものである。

【キーワード】

◉超高齢社会　◉健康寿命　◉音楽療法　◉レチノイド　◉癌の化学予防

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000281

千鳥　司浩　　CHIDORI Kazuhiro　　（大学院・人間福祉学研究科）（理学療法学科）教授

【研究テーマと内容】

① 高齢者、障害者の姿勢調節および転倒予防に関する研究

・足底感覚と片脚立位バランスとの関係について

・歩行速度の違いによる歩行周期時間変動の関係について

・姿勢バランスを向上させるための振動刺激機器の開発

② 認知機能が知覚-運動機能に及ぼす影響と運動学習に関する研究

・段差における高さの見積もりがつまずきに及ぼす影響について

【共同研究希望テーマ・分野】

・地域在住高齢者における転倒予防の取り組み

・高齢者サロン等での健康増進および認知機能の活性化についての取り組み

・振動機器の開発

【キーワード】

◉高齢者　◉歩行　◉転倒予防　◉足底感覚　◉バランス

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymiigookggy

三上　章允　MIKAMI Akichika　（大学院・人間福祉学研究科）（理学療法学科）教授、総合研究センター所長

【研究テーマと内容】

①認知症の予防、早期発見、評価、ケアに関する研究（2015 年より各務原市において共同研究をおこない、市内の全高齢者施設スタッフの意識調査、市民の意識調査を行なった後、測定会を年に 1～2 回実施してきた。）

② 日本を含む東アジアにおける終末期ケアの研究（2012 年～2018 年まで学内研究者・他大学研究者・海外研究者との共同研究として実施、現在データ解析、論文執筆中）

③ 立位バランス制御と転倒予防の研究（1999 年より外部の病院との共同研究として取り組み、現在も進行中）

④ 脳の高次機能の脳内機構の研究（1974 年より取り組んでいる）

⑤ 脳障害における高次脳機能評価の研究（1998 年より取り組んでいる）

⑥ 脳の発達と進化の研究（2000 年より、海外研究者、学外研究者を含む共同研究として取り組み中）

⑦ 色覚およびその進化の研究（1998 年より、海外研究者、学外研究者を含む共同研究として取り組み中）

【共同研究希望テーマ・分野】

・認知症の予防、早期発見、評価、ケアに関する研究　・終末期ケアに関する研究

・これらの関連領域の研究テーマで共同研究可能　・立位バランス制御と転倒予防に関する研究

【キーワード】

◉脳機能　◉認知症　◉転倒予防　◉終末期ケア　◉色覚

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymekgboyggy

井村　保　IMURA Tamotsu　（理学療法学科）教授

【研究テーマと内容】

神経難病（ALS 等）患者のコミュニケーション支援

・医療職を目指す学生・経験のない医療職への短期体験研修プログラムの構築

・早期介入のための多職種連携体制の構築

・障害者総合支援法における補装具として重度障害者用意思伝達装置に係る現状調査と制度改正にむけた素案作成と提案

・神経難病患者へのコミュニケーション支援を行う医療職の支援（専門職支援と連携パス）の構築

・神経難病患者に対するコミュニケーション機器導入支援に関するガイドブックの作成

【共同研究希望テーマ・分野】

・難病患者のコミュニケーション支援

・多職種連携の支援体制の構築

【キーワード】

◉神経難病　◉コミュニケーション支援　◉福祉用具　◉補装具　◉障害者総合支援法

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymimgmokggy

清水　大輔　　SHIMIZU Daisuke　　（理学療法学科）教授

【研究テーマと内容】

① 画像判断 AI による人骨の年齢推定

人骨の年齢推定は成長期であれば非常に細かく正確に行うことが可能であるが、それ以降は誤差範囲が大きくなり、観察者間の誤差も大きくなる。それらの誤差を是正するために画像判断 AI により年齢推定を行えるように取り組んでいる。

② 戦没者遺骨収集

厚生労働省による戦没者遺骨収集に従事している。

【共同研究希望テーマ・分野】

① 人骨年齢推定 AI により、年齢推定を行うアプリの開発

② 戦没者遺骨収集に参加する人に向けた人骨関する知識の向上

【キーワード】

◉人骨 ◉年齢推定　◉画像判断 AI　◉戦没者遺骨収集

https://researchmap.jp/dai-s

大嶽　昇弘　　OTAKE Norihiro　（理学療法学科）特任教授

【研究テーマと内容】

高齢者が健やかに生きられるように、転倒予防として、ロコモティブシンドローム予防、移動が継続できるように腰痛予防をテーマとし、日常生活における適切な姿勢、動作、運動方法について関心を持っています。

【キーワード】

◉転倒予防　◉ロコモティブシンドローム予防　◉腰痛予防

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymksyoyoggy

鵜飼　建志　　UKAI　Takeshi　　（理学療法学科）准教授

【研究テーマと内容】

テーマ：・各種スポーツ傷害発生の動作機序と症状発現原因に関する運動学的・解剖学的研究
　　・スポーツパフォーマンス向上に関する研究

内　容：・スポーツ現場におけるチームサポート及びスポーツ傷害の予防の実践調査
　　・効果的なストレッチング方法の確立
　　・スポーツパフォーマンス向上やスポーツ傷害予防に効果的な筋力トレーニングに関する研究
　　・超音波画像診断装置を用いた運動器の機能解剖学的研究

【共同研究希望テーマ・分野】

・障害者スポーツに対する学生の意識調査
・超音波画像診断装置を用いた運動器の解剖学的研究、運動療法の開発

【キーワード】

◉スポーツ傷害　◉ストレッチング　◉筋力トレーニング　◉アスレティックトレーナー
◉超音波画像診断

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymidgsoeggy

三川　浩太郎　　MIKAWA Kotaro　　（大学院・人間福祉学研究科）（理学療法学科）准教授

【研究テーマと内容】

① 筋肉と健康

同じ体重の人でも，「脂肪が多い人」より「筋肉が多い人」の方が，長生きできることが明らかになっている．そのため，地域在住高齢者を対象に，効率よく筋肉量を増やすための介入方法（筋力トレーニング・栄養摂取）の研究や介護予防サロンを行っている（サルコペニアやフレイルの予防）．

② 慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者とリハビリテーション

国内の COPD の潜在的な患者数は 500 万人いると推計されている．その COPD に罹患しないための予防法や新たなリハビリテーションプログラムの開発に向けて研究している．

【共同研究希望テーマ・分野】

・地域高齢者のサルコペニアやフレイルに関する研究
・呼吸リハビリテーションに関する研究
・中高年から高齢者までの健康づくり（体力測定・健康指導）

【キーワード】

◉サルコペニア ◉フレイル　◉筋力トレーニング　◉介護予防サロン　◉COPD

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdmgmyiggy

笠野　由布子　　KASANO Yuko　　（理学療法学科）准教授

【研究テーマと内容】

①パフォーマンス評価に関する研究

・足の変形が歩行動作に与える影響について

・効率的な立ち上がり動作のための手すりの評価

②女性の健康（ウィメンズヘルス）に関する研究

・妊婦体験ジャケット装着下での立ち上がり、階段昇降動作の腰部負担について

・若年女性の履物と足部変形に関する調査研究

・女性の骨盤形態と出産経験の関係について

【共同研究希望テーマ・分野】

・パフォーマンス分析・評価

・産後女性の腰痛・骨盤痛予防

【キーワード】

◉動作分析 ◉腰痛　◉骨盤痛　◉ウィメンズヘルス

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymbgyygeggy

菅沼　惇一　　SUGANUMA Junichi　　（理学療法学科）准教授

【研究テーマと内容】

私の研究テーマは大きく２つです。

①立位バランス能力や歩行能力を向上させるために足底の感覚機能に着目した介入方法の開発を目的とし、足底の感覚トレーニングの効果とそのメカニズムを解明することです。足底の感覚トレーニング の介入方法やメカニズムを明らかにし、脳損傷者や立位不良者に対するリハビリテーションプログラムの介入の一助を目指しています。

②加齢により身体機能が低下することで、「転ぶかもしれない」「転びそうで怖い」といった転倒恐怖心を持たれている方がいます。この転倒恐怖心は身体機能が良くても、持たれている方もいます。この転倒恐怖心が心身機能に与える影響について調査することです。

【共同研究希望テーマ・分野】

①地域在住高齢者の「転倒予防」に関する研究

②転倒予防のための「バランストレーニング」に関する基礎研究

③地域在住高齢者の転倒恐怖心がバランスと自律神経活動に及ぼす影響の研究

【キーワード】

◉高齢者　◉転倒予防　◉転倒恐怖心　◉バランス　◉足底感覚

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymbmgsyoggy

大竹　康平　　OTAKE Kohei　　（理学療法学科）講師

【研究テーマと内容】

呼吸器疾患患者を対象とした研究を主に行っており、大きく２つのテーマについて研究を行っています。

① 間質性肺疾患患者を対象とした、新たな呼吸リハビリテーションの開発

▷ 現在は、地域の総合病院で間質性肺疾患患者を対象とし、6 分間歩行試験を用いて分類したサブグループにおける特徴を明らかにしています。その中で、呼吸リハビリテーションで改善可能な因子を明らかにしつつ、特徴に応じた呼吸リハビリテーションの効果を明らかに今後研究を進めていく予定としています。

② 地域在住高齢者を対象とした、呼吸サルコペニアの有無と関連する因子の検討

▷ 現在、大学においては、地域在住高齢者において、超音波画像診断装置や呼吸機能検査、呼吸筋力検査を行い、2024 年度よりデータを収集する予定としています。本研究の目的は、地域在住高齢者の呼吸サルコペニアの有病率を明らかにし、理学療法士として介入可能な因子を明らかにしていくことを目的としています。

【共同研究希望テーマ・分野】

・間質性肺疾患患者を対象とした 6 分間歩行試験を用いた研究
・間質性肺疾患患者を対象とした呼吸リハビリテーションの研究
・地域在住高齢者を対象とした呼吸サルコペニアに関する研究

【キーワード】

◉間質性肺疾患　◉高齢者　◉サルコペニア　◉リハビリテーション　◉運動耐容能

https://researchmap.jp/otake_kohei

松村　佑介　　MATSUMURA Yusuke　　（理学療法学科）講師

【研究テーマと内容】

①一般市民を対象とした呼吸器疾患および呼吸リハビリテーションの認知度調査

一般市民を対象に慢性閉塞性肺疾患（COPD）および肺非結核性抗酸菌症（肺 NTM 症）に関する認知度、ならびに呼吸リハビリテーションの認知度を明らかにし、今後の予防啓発活動や治療への理解・参加を促す保健医療政策の基礎資料を提供することを目的とした研究を進めていく。

②不安・抑うつ等精神心理面に対するリハビリテーションの効果

慢性呼吸器疾患患者の 3 割以上は不安や抑うつ症状を有することが明らかとなっている。呼吸リハビリテーション介入により、短期・長期的な効果を検証するとともに新たなアプローチの検討を目的とした研究を進めていく。

【共同研究希望テーマ・分野】

・肺非結核性抗酸菌症をはじめ、呼吸器疾患患者の不安・抑うつ症状に焦点を当てた研究
・一般市民を対象とした COPD・肺非結核性抗酸菌症の認知度調査

【キーワード】

◉肺非結核性抗酸菌症　◉COPD　◉認知度　◉精神心理　◉健康関連 QOL

https://researchmap.jp/matsumura-yusuke

山本　晨平　　YAMAMOTO Shimpei　　（理学療法学科）講師
【研究テーマと内容】 テーマ：乳幼児の運動発達に関する研究 ①ハイハイ動作の学習プロセスとその効果に関する調査 ②運動発達と全般的発達（認知・コミュニケーション能力など）との関連に関する研究 ③乳児の運動発達の質的評価方法の開発 【共同研究希望テーマ・分野】 ・小児リハビリテーション ・乳幼児期の運動発達 ・発達支援 ・発達リスクの早期発見 【キーワード】 ◉小児リハビリテーション　◉運動発達　◉運動学習　◉発達支援　◉身体成長 https://researchmap.jp/Shimpei-Yamamoto

看護リハビリテーション学部

看護学科

木下　幸子　　KINOSHITA Sachiko　　（看護学科）教授

【研究テーマと内容】
研究領域は、皮膚のケア、創傷看護、排泄のケアです。
皮膚・排泄ケア認定看護師として臨床の現場で、褥瘡をはじめ、術後創、がんに関連する創傷などいわゆる創傷看護、皮膚のケアに長く関わってきました。また、排泄ケアにおいては、主にストーマケア（人工肛門・膀胱）に関わり、専門に勉強してきています。近年の研究テーマは、弾性ストッキングをはじめとする医療関連機器圧迫創傷の予防とケア、チューブ・カテーテル類による医療関連機器圧迫創傷の予防とケアについてです。

【共同研究希望テーマ・分野】
地域連携や多職種で取り組むストーマケア・創傷ケア～地域の薬局や医療器具販売店のスタッフとの協働～・成人・老年・在宅看護

【キーワード】
◉スキンケア　◉圧迫創傷　◉ストーマケア

https://researchmap.jp/kinos-i

木村　恵子　　KIMURA Keiko　　（看護学科）教授

【研究テーマと内容】
心の健康問題で休職した看護師の現場復帰支援の課題」について研究をしています。「心の健康問題で休職」の問題は看護師に限らず、今や、どの職場でも聞かれる話題ではないでしょうか？精神疾患治療中の患者は、392 万人と年々増加しています。その結果、ガン・脳血管障害・糖尿病・虚血性心疾患の 4 大疾病を抜いて一番多くなってしまいました。従って、精神疾患の治療と仕事の「両立支援」が必要となってきています。
近年、50 名以上の事業所では、「ストレスチェック」が義務づけられ、労働者の心の健康の保持増進が努められる様になりました。「心の健康問題の予防や、早期発見」については、取り組みが進んでいます。しかし、「精神疾患についての理解や、精神障害者の障害の理解についての知識をもつこと」、「現場復帰してきた労働者への支援をどのようにしていけばよいか」については、まだ、さまざまな懸念があると思います。「心の健康問題で休職した労働者の現場復帰支援についての現状と課題」について看護師を例に、精神疾患の治療と仕事の「両立支援」について役に立てることがあればと考えています。

【共同研究希望テーマ・分野】
メンタルヘルス

【キーワード】
◉看護師　◉労働災害　◉ストレスチェック　◉両立支援

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymisgiybggy

植松　勝子　　UEMATSU Katsuko　　（看護学科）教授

【研究テーマと内容】

テーマ：軽度の発達障がい児の保護者支援

内　容：知的障害を伴わない発達障がい児の支援体制は、地域格差もあり十分とは言えない状況にある。軽度であるが故、見過ごされたり、支援が施されなかったりで、二次障害の発症で初めてその問題に気づかされる保護者も多い。発達障がいの早期発見・早期支援について、市町村保健センター・保育所等を中心とした連携システム・早期発見のため（乳児期後半～１歳６カ月児健診）のスクリーニングのあり方、乳児期後半の母子保健事業のあり方など検討を行っている。新たに、乳児の育てにくさや社会性の発達への支援について、具体的な支援のあり方を探求したい。

また、通級指導教室を利用している児童の保護者支援について、親の会などの活動の支援を行うための関係機関との整備について研究したいと考えている。

【共同研究希望テーマ・分野】

・母子保健：１歳６カ月児健康診査のスクリーニングシステム

・子育て支援：育てにくい子をもつ保護者への支援

・通級指導教室在籍の児童をもつ保護者支援

【キーワード】

◉軽度の発達障がい児　◉保護者支援　◉育てにくさ　◉社会性の発達　◉早期発見・早期支援

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymikgkydggy

宮田　延子　　MIYATA Nobuko　　（看護学科）特任教授

【研究テーマと内容】

１．在宅高齢者の健康に関する研究

長年にわたる地域フィールド活動から、在宅高齢者の健康状態に関わる生活習慣や活動能力について実態調査および縦断研究を行ってきた。日常生活における生活習慣はその個人の日常活動能力を司ることや、活動能力が高い個人が生活習慣に多くの行動を取り入れている結果であった。また生活習慣病予防活動の結果、平均寿命の延長、医療費の黒字経営、主な疾患の受療率などいくつかの地域の健康水準は向上した。現在、高齢化率 45%を超えた地域の健康課題は、健康寿命の延伸のための新たな取り組みが求められている（2024 年度全住民対象の健康に関する意識調査より）

２．家族看護に関する研究

地域の在住高齢者が、この地域に住んでどうだったか、終末段階をどのように過ごして、誰による看取りで、どう亡くなったのか、看取り終わって１年以上経過した家族にインタビューした結果を明らかにした。家族機能がどう発揮されたのか、看取りは満足だったのか、サービス担当者への想いはどうだったか等から、家族の看取り支援のあり方を考える。

【共同研究希望テーマ・分野】

・家族の健康に関わる生活上の困難と看護介入の在り方

・中高年集団の生活習慣とリフレッシュによる心の健康づくり

【キーワード】

◉在宅高齢者　◉健康度　◉日常生活習慣　◉活動能力　◉家族による看取り

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymikgkydggy

田中　耕　　TANAKA Tagayasu　　（看護学科）特任教授

【研究テーマと内容】

・テーマ：岐阜県内市町村のソーシャルキャピタル指標と自殺死亡率との関係

内容：高齢者の自殺対策を進めるうえでソーシャルキャピタルが注目されている。県内での自殺死亡は従来から飛騨地域に多い傾向にあるが、ソーシャルキャピタルとの関連を市町村単位で比較し、どのような内容のソーシャルキャピタルが自殺死亡に関連しているかについて検討し、岐阜県内の自殺対策を進めることに役立てる。

・テーマ：地域データからみた保健医療福祉ニーズの把握

内容：地域自治体が保有している保健医療福祉に関するデータを分析することによって、全国あるいは岐阜県との保健医療福祉に関する水準を比較し、住民が必要としている支援について検討する。

【共同研究希望テーマ・分野】

保健医療福祉の現状把握・公衆衛生

【キーワード】

◉地域保健　◉疫学　◉健康科学　◉環境科学　◉データの可視化

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymkggmobggy

留田　由美　　TOMEDA Yumi　　（看護学科）准教授

【研究テーマと内容】

①岐阜県における看護教育の歴史

岐阜県では、明治期より日本赤十字社岐阜市部や岐阜縣病院などで看護師（婦）養成校教育が開始された。現在は、昭和 40 年代初頭より開始された全日制および定時制高等学校の衛生看護科について研究をしている。

②看護教育における客観的臨床能力試験（OSCE）導入の検討

現在、医師・歯科医師・薬剤師養成教育に導入されている客観的臨床能力試験（OSCE）の看護教育での学生の看護技術の修得・向上に向けての導入方法を研究している。

③保育施設における医療的ケア児および病児支援に対する検討

現在、需要が高まっている保育所（園）においての医療的ケア児および病児の受け入れ支援について研究している。

【共同研究希望テーマ・分野】

テーマ：乳幼児の健康　　分野：小児保健

【キーワード】

◉看護教育　◉歴史　◉小児看護　　◉小児保健

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000003

林　久美子　　HAYASHI Kumiko　　（看護学科）准教授

【研究テーマと内容】
① 看護学実習における臨地実習指導者が抱える役割ストレスを研究テーマとし、臨地実習指導者の専門学歴や、勤務体制・臨地実習指導体制、看護教員との連携と役割ストレスとの関連を分析した。
② 看護学実習におけるインシデント・アクシデント報告を研究テーマとし、看護学実習におけるインシデント・アクシデント報告の判断を看護教員がどのように行っているか、判断プロセスを調査している。
③ 看護基礎教育課程、医療施設における LGBTQ 等のジェンダーマイノリティへの対応を研究テーマとしている。ダイバーシティデザインが求められている中、どのような対応がされているのか実態調査を行う。

【共同研究希望テーマ・分野】
医療施設でのジェンダー対応（LGBTQ など）について共同研究を希望する。
現在、どのような対策を講じていて、今後どのような対応を必要とするのか検証していく。

【キーワード】
◉看護学実習　◉臨地実習指導者　◉医療安全　◉ダイバーシティデザイン　◉LGBTQ

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000165

野田　明敬　　NODA Akinori　　（看護学科）准教授

【協同が与える職場への影響についての研究】
　職場内の人間関係における、協同（仲間同士で喜びを分かち合える状況）、競争（他者と業績を競い合う状況）、個別（他者と全く相互依存関係がない状況）の３つの状況において、最も理想的な状況であると考えられる「協同」が、職場における業務上の成果や、職業の継続意志へ与える影響について研究する

【職業の特性的な自己効力感についての研究】
Bandura が提唱した「自分にはそれをする力がある」という自己能力の認知である「自己効力感」は、職業単位においても、それぞれに特性的な自己効力感があり、職業継続意志の根底を支えていると考えられる。それぞれの職業の「自信」や「有能感」を構成する特性的な因子を明らかにし、職業の継続意志との関連について研究する。

【共同研究希望テーマ・分野】
　テーマ【職業継続に関する研究】
　　・職場の人間関係に関する研究
　　・職業の特性的な自己効力感に関する研究
【キーワード】
◉職業継続　◉離職予防　◉自己効力感　◉人間関係　◉協同
https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdegeyeggy

岡本　千尋　　OKAMOTO Chihiro　　（看護学科）講師

【研究テーマと内容】

これまで、効果的な看護技術教育の実践をテーマに ①臨床看護師と協働で行う看護技術教育について、②実験を導入した看護技術教育について、③身体侵襲を伴う看護技術を学生間で体験する学習方法について、④ブレンディッドラーニングを用いた看護技術の修得支援について、⑤再生刺激法を用いた看護技術教育について取り組んできた。

また、循環病態学の基礎研究として「極端な減塩食が生体にもたらす影響」をテーマに取り組んできた経験から、今後は高血圧・循環器病予防療養指導士として地域住民の生活習慣病予防啓発活動をテーマに取り組んでいきたい。

【キーワード】

◉看護技術教育　◉看護技術　◉フィジカルアセスメント　◉循環病態学

◉高血圧・循環器病予防療養指導士

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000160

山口奈都世　　Natsuyo Yamaguchi　　（看護学科）講師

【研究テーマと内容】

高齢者の自立支援を研究テーマとしています。高齢者は加齢により身体や認知など様々な機能が低下します。そして、複数の疾患を有していることから、入院する割合も多くなってきます。入院という環境の変化は、身体機能や認知機能の低下を助長させ、これまで行えていた日常生活動作ができなくなるケースも多くあります。このことは、家族の介護問題などから自宅への退院ができるかの分かれ目になってきます。高齢者の機能低下は、加齢変化や意欲など高齢者側の課題だけでなく、看護の担い手である看護師側の課題も多くあると考えています。そこで、高齢者の日常生活動作における機能が維持や向上するような看護師の自立支援の在り方について探求しています。

【共同研究希望テーマ・分野】

・高齢者の日常生活動作における自立支援に関する研究

・認知症看護に関する研究

【キーワード】

◉高齢者看護　◉日常生活動作　◉自立支援　◉高齢者意欲　◉認知症高齢者

https://researchmap.jp/7-7

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

肥後　睦輝　　HIGO Mutsuki　　（スポーツ健康科学科）教授

【研究テーマと内容】

1.アスリートの心理サポートに関する研究

・競技力向上のためのメンタルトレーニング

・アスリートのカウンセリング

2.心と身体に関する研究

・身体レベルで顕在化される心理的問題について

　― 実力発揮出来なさ、イップス、スランプなどと心理的問題との関連

・アスリートの心と身体の共時的な関連について

【共同研究希望テーマ・分野】

上記テーマに関連するテーマ

【キーワード】

◉スポーツ臨床　◉心理サポート　◉スポーツカウンセリング　◉メンタルトレーニング

◉こころとからだ

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000146

中川　雅人　　NAKAGAWA Masato　（スポーツ健康科学科）教授

【研究テーマと内容】

① デジタル工作技術を用いた福祉用具の作成

近年、３Ｄプリンタ等の低価格化が進み、個人でも自由にモノづくりができる環境が整ってきた。こうした技術を活用すれば、個人に特化した福祉用具が安価に作成でき、障がい者や高齢者の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上に役立つと考えられる。そのための技術や、技術を持った人材の育成等について研究している。

② e ラーニングの効果的な活用に関する研究

e ラーニングシステムに蓄積された学修履歴を分析し、教育の質の改善を図ったり、教育の効果を分析・検証する等の研究をしている。

【共同研究希望テーマ・分野】

・デジタル工作技術を用いた福祉用具の作成　・教育のＩＣＴ化

【キーワード】

◉デジタル工作技術　◉福祉用具　◉QOL、ADL 向上　◉e ラーニング　◉LA(Learning Analytics)

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdggeooggy

水野　かがみ　　MIZUNO Kagami　　（スポーツ健康科学科）教授

【研究テーマと内容】

① 人々が健康で豊かな人生をおくるために運動の必要性は言うまでもないが、日常生活における運動の実践はなかなか容易ではない。健康寿命の延長を目指した方策を立てていくうえで、個々の運動実践につながる健康づくり事業の運営と展開及び効果的な運動プログラム内容について調査と実践をふまえながら研究を進めている。

② 人々の健康づくりのための運動指導者養成において、指導力を身につけるための効果的な教育方法について研究をすすめる。特に水を介した運動プログラムに着目し、実践を兼ねながら泳力と指導能力向上のための内容について考えていく。

【共同研究希望テーマ・分野】

地域住民の健康生活調査及び、中高年者の健康づくりのための運動実践の効果と評価、
水中運動プログラムの展開など

【キーワード】

◉健康　◉運動　◉中高年者　◉運動指導者　◉水中運動

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymieyysgggy

有川　一　　ARIKAWA Hajime　　（大学院・人間福祉学研究科）（スポーツ健康科学科）教授

【研究テーマと内容】

・「運動」と「発声」

私は，「運動中の発声」が健康増進にどのような効果を及ぼすかを解明しています。スポーツを行う際に声を出すことが一般的ですが，私のこれまでの調査によると，この発声が血中二酸化炭素(CO_2)の濃度を上げ，血流を増加させることで全身に酸素がより多く運ばれる効果があることが示されています。特にハミングが生じさせる一酸化窒素(NO)が酸素運搬量を増加させる傾向にあると確認されています。この研究を通じて，運動と発声の組み合わせがどのように健康増進に寄与するかを探求しています。

・ちゃんと運動できていますか？

日常生活での身体活動量を調査し，厚生労働省の「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」に準拠しているかを評価しています。これまでの調査では，本人が考えているより身体活動量がはるかに少ないケースが多くみられています。また，これに基づき，具体的な活動量の増加策として，職場にウォーキングコースを設定するなどのモデルを提案しています。

【共同研究希望テーマ・分野】

・「発声」を積極的に取り入れた運動プログラムの開発，効果検証
・「発声」を積極的に取り入れた健康増進機器の開発，既存する機器の効果検証
・「健康経営」に関連した社員の身体活動量評価および日常的な運動プログラムの作成
・地域住民の体力・身体活動量評価およびフィードバック

【キーワード】

◉健康増進　◉運動　◉体力　◉発生　◉身体活動量増加

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdegkybggy

浅田　訓永　ASADA Norihisa　（スポーツ健康科学科）教授

【研究テーマと内容】

① 法の下の平等の意味についての研究

法の下の平等の意味について、アメリカ及びカナダの平等理論の比較研究を行いつつ、研究を進めている。具体的には、日米加の判例理論の分析を中心に行っている。

② インターンシップ研究

大学、地方公共団体又は企業、さらには学生にとって有益な有給・無給インターンシップのあるべきかたちに向けた研究を進めている。また、有給・無給インターンシップ研究から得られた視点を地方創生、地域経済の活性化と関連づけて検討を行う予定もしている。

【共同研究希望テーマ・分野】

有給インターンシップと無給インターンシップの両立に向けた共同研究

【キーワード】

◉法の下の平等の意味　◉憲法判例の軌跡　◉有給インターンシップ　◉無給インターンシップ
◉地方創生とインターンシップ

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymbggygsggy

鈴木　壯　SUZUKI Masashi　（大学院・人間福祉学研究科）（スポーツ健康科学科）特任教授

【研究テーマと内容】

1.アスリートの心理サポートに関する研究

・競技力向上のためのメンタルトレーニング
・アスリートのカウンセリング

2.心と身体に関する研究

・身体レベルで顕在化される心理的問題について
　― 実力発揮出来なさ、イップス、スランプなどと心理的問題との関連
・アスリートの心と身体の共時的な関連について

【共同研究希望テーマ・分野】

上記テーマに関連するテーマ

【キーワード】

◉スポーツ臨床　◉心理サポート　◉スポーツカウンセリング　◉メンタルトレーニング
◉こころとからだ

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000146

後藤　健太　　GOTO Kenta　　（スポーツ健康科学科）准教授

【研究テーマと内容】

1.自閉スペクトラム症（ASD）児の運動スキル向上に関する研究

ASD 児における運動スキル欠如のメカニズムの解明や指導方法について研究する。

2.脳卒中者の体力向上に関する研究

地域在住の脳卒中者における有酸素運動能力および筋持久力向上のための運動プログラムについて研究する。

3.脳性麻痺者の走運動パフォーマンスに関する研究

立位での走行が可能な脳性麻痺者における筋機能と走運動パフォーマンスの関係について、また効果的なトレーニングについて研究する。

4.学生および体育教員の障がい者体育・スポーツ指導に対する意思に関する研究

PEITID（Physical Educators' Intention toward Teaching Individuals with Disabilities）の日本語版作成および信頼性と妥当性を検討する。また、それを用いて、現役体育教師や体育教師を目指す学生の障がい児者指導に対する意識を測る。

【共同研究希望テーマ・分野】

・発達障害児の体育　・高齢者の体力　・車椅子使用者のスポーツパフォーマンス

【キーワード】

◉障がい　◉体力　◉運動スキル　◉トレーニング　◉認知

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000162

坂本　太一　　SAKAMOTO Taichi　　（スポーツ健康科学科）准教授

【研究テーマと内容】

① 近代における剣道技術史の研究

幕末期から昭和初期（戦前）にかけて行われた剣道の技術的変遷について研究を進めている。また、敗戦後「スポーツ」として再開された剣道に着目し試合での有効打突の傾向について分析を行っている。

② 近代における剣道用具史の研究

幕末期から平成にかけて使用された剣道具・竹刀を網羅的に蒐集し、どのような変遷をたどったのか研究を進めている。

③ 剣道における技術と道具の関連性

剣道技術史研究、剣道用具史研究から得られた知見をもとに、剣道の「わざ」と「道具」の関連性について研究を進める。

【共同研究希望テーマ・分野】

・スポーツ産業　・スポーツ哲学　・スポーツ人類学

【キーワード】

◉スポーツ史　◉技術史　◉剣道　◉スポーツ産業　◉用具

https://researchmap.jp/taichi1228

東海林　沙貴　　TOHKAIRIN Saki　　（スポーツ健康科学科）講師

【研究テーマと内容】

テーマ：体育授業における学習者間の相互作用を促す方策に関する研究

内　容：学校における体育授業の目的は、運動やスポーツの技能向上や技術習得のみではない。そこで、これまで、他者と協働する力を培うことに着目してきた。特に、Cooperative Learning やジグソー法等の手法を参考に、小学校における学習者間の関わりを促す授業づくりについて考察を重ね、学習者全員が授業に積極的に参加し、他者に関わることのできる方策およびその成果について研究してきた。その知見を活かし、より広い意味での相互作用の促進や深まり、また、多様な学習者を対象とした授業づくりについて研究を進めている。

【共同研究希望テーマ・分野】

・通常学級に在籍している、特別な配慮を要する児童生徒に対する体育授業の支援

・体育授業における対話

・体育科を専門としない先生方を対象とした、学習者間の関わりを促すための授業づくり

【キーワード】

◉体育授業　◉協同学習モデル・Cooperative Learning　◉学習者同士の関わり合い　◉ジグソー

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymmgyoyyggy

川西　司　　KAWANISHI Tsukasa　　（スポーツ健康科学科）講師

【研究テーマと内容】

地域社会におけるスポーツの機能とその社会的価値に関する実証的研究を主軸としている。特に、地域コミュニティの活性化とソーシャルキャピタル（社会関係資本）の醸成に寄与するスポーツ活動の在り方について、理論的検討と実践的取組を交差させながら探究している。

その他には、部活動の地域移行化に伴う新たな地域スポーツモデルの構築、スポーツを基盤としたサードプレイスの設計・運用に関する研究に取り組む。

行政・教育機関・地域団体等との連携を通じ、持続可能なスポーツ環境と地域社会の形成を目指している。

【共同研究希望テーマ・分野】

地域スポーツを基盤としたソーシャルキャピタル醸成に関する研究

部活動の地域移行化と地域スポーツ政策に関する調査・実践

スポーツを媒介としたサードプレイス設計と社会的包摂

地域スポーツイベントを活用した社会的ネットワークの強化戦略

【キーワード】

◉地域スポーツ　◉生涯スポーツ　◉ソーシャルキャピタル　◉部活動地域移行　　◉サードプレイス

https://researchmap.jp/t-kawa24

短期大学部

幼児教育学科

杉山　祐子　　SUGIYAMA Yuko　（幼児教育学科）学科長、教授

【研究テーマと内容】

テーマ：志望・潜在保育者の現職化のための音楽に関する技術（ピアノ学習）支援

内　容：待機児童ゼロを目指す方針が打ち出されているなか、潜在保育者の現役復帰を阻む要因である音楽技能の支援を研究している。高校生の保育者志望に関しても、進路に躊躇する場合の支援にもなる。これまで１対１の指導に依存しているピアノ技能習得に、ICT を活用した学習システムを開発し、独りでも頑張れるピアノ、みんなで協働して取り組む学習の構築を図る。

【共同研究希望テーマ・分野】

・地域の潜在保育士の掘り起こし　　・保育者復職に向けた技術支援

【キーワード】

◉ICT　◉音楽技能　◉潜在保育者　◉表現活動

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymiggdokggy

菊池 啓子　　KIKUCHI　Keiko　　（幼児教育学科）教授

【研究テーマと内容】

テーマ：子どもの食育

内　容：子どもの成長を見る上で、食は大変重要である。食に関わる経験の有無によって子どもの育ちに差が出てくるのではないかと考えている。そこで、子どもたちに多くの食経験をさせることにより、知育・体育・徳育などとの関係性を検証する。

テーマ：ASEAN 諸国の知的障がい者就労支援（食品加工）

内　容：タイの特別支援学校では幼稚部から高等部まで、子どもたちが一緒に通学や宿泊をしながら自立に向けて学習している。学習の中には、将来経済的な自立ができるよう、就労のためのトレーニングを実施している。家政の中でも食品加工分野は需要も多く、就労につながる子どもたちが多い。そこで、個々の子どもに合った就労（作業）を見つけ、長く就労できる職種をより正確に見つけることを検証する。

【共同研究希望テーマ・分野】

共同研究希望テーマ：母親支援と子どもの食

分野：子育て支援と食事、食育に関わる子どもの環境

【キーワード】

◉食生活　◉食育　◉子育て支援　◉障がい者就労支援

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymikgboyggy

岡田　泰子　　OKADA Yasuko　　（幼児教育学科）教授

【研究テーマと内容】

テーマ：① 乳幼児及び保育者のための音楽あそびの研究

② 保育者養成課程におけるピアノ奏法の研究

内　容：保育士養成課程における表現技術（ピアノ・音楽あそび）をピアノ実技、リトミックを通して検討する。また乳幼児のための童謡を用い、リトミックに結びつけた、音と動きの表現を検討。各楽曲の導入として展開可能な音楽あそびを構築する。また、表現領域を融合させた（言葉・造形など）演奏会の実施を計画している。

【共同研究希望テーマ・分野】

希望テーマ：地域住民の方を対象とした音楽活動

分　野　：音楽

【キーワード】

◉音楽　◉リトミック　◉ピアノ　◉教育　◉あそび

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymiigegyggy

西垣　直子　　NISHIGAKI Naoko　　（幼児教育学科）特任教授

【研究テーマと内容】

乳幼児の育ちを支える保育者の関わりのあり方についての研究

保育者は子どもの育ちを支えるために様々な工夫をしながら保育を進めようとしている。その工夫を保育の具体事例を通して整理し、子どもの行動や意識にどの様に影響を及ぼしていくのかを明らかにしていく。それによって、経験の少ない保育者の実践力向上につなげたいと考えている。

特に、遊び・活動の連続性と子どもの育ちの関係に注目して、事例分析を行っており、得られた情報を保育現場での研修に還元するよう努めている。

【共同研究希望テーマ・分野】

保育現場での研修のあり方

保育の質の向上

【キーワード】

◉乳幼児の発達　◉内面理解　◉現場研修　◉遊び　◉連続性

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000223

村田　泰弘　　MURATA Yasuhiro　　（幼児教育学科）准教授

【研究テーマと内容】

テーマ：障がい者支援施設において行動問題を示す知的障がい者の生活環境の改善

内　容：障がい者支援施設を利用している知的障がい者の中には、他害行動、自傷行動、破壊行動などの行動問題を示している場合がある。知的障がい者が示す行動問題は、彼らの生活の質（QOL）の向上を妨げる一つの要因になっており、早急な対応が求められている。

知的障がい者が示す行動問題へのアプローチの一つとして、「積極的行動支援」という方法があり、私はその方法の有効性を検討している。

【共同研究希望テーマ・分野】

行動問題を示す知的障がい者に対する支援

【キーワード】

◉障がい者支援施設　◉知的障がい者　◉行動問題　◉積極的行動支援

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymddgkyyggy

熊谷　亨子　　KUMAGAI Takako　　（幼児教育学科）准教授

【研究テーマと内容】

①インクルーシブ保育を実践するための保育者養成校における学びに関する研究

障害児や何等かの理由で支援の必要な子ども、特別な支援が必要でない子どもも、関わり合ったり、時にぶつかり合ったりしながらお互いを理解し育ち合うことを支えるためには、保育者の高度な専門性が求められます。養成校での学びを将来の実践につなげる可能性を高めたいと考えています。

②保育領域での多職種連携の在り方に関する研究

園内では看護師や調理員、バスの運転手など、保育者以外にも勤務する他職種の職員がおり、園外の専門家である医師をはじめとする医療関係者や福祉、教育関係者等との連携が必要となります。地域の特色を生かした連携の在り方について調べます。

【共同研究希望テーマ・分野】

医療的ケアを必要とする子どものインクルーシブ保育について

視覚障害児を含むインクルーシブ保育と環境について

【キーワード】

◉インクルーシブ教育　◉保育者養成　◉多職種連携　◉視覚障害　◉医療的ケア

倉畑　萌　　KURAHATA Moe　　（幼児教育学科）講師

【研究テーマと内容】

① 乳幼児期における仲間関係についての研究

保育現場における乳幼児期の子どもの姿を観察し、他児・保育者との関わり方から子どもの社会性の発達について研究をしている。

② 主体的な遊びを促す保育についての研究

子どもが主体的に遊ぶ中から、様々な学びが見られるはずである。主体的に遊べる環境を見直し、また子どもの視点で保育を考えることを重要視し、現場の先生方と共に実践する研究を進めたいと考えている。

【共同研究希望テーマ・分野】

・保育の質の向上　・乳幼児期の社会性の発達

【キーワード】

◉乳幼児　◉仲間関係　◉模倣　◉心身の発達　◉社会性

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000238

小椋　優作　　OGURA Yusaku　　（幼児教育学科）講師

【研究テーマと内容】

1. 子どもの心と身体を育む運動遊び指導とその効果検証

子どもの心と身体を育むことができる運動遊び指導をするとともに、体力・運動能力や動作について測定・評価し、その運動遊び指導の効果について検証している。

2. 幼少期における体力・運動能力の縦断的調査

子どもの身体の発育や、体力・運動能力の発達を縦断的に調査することで、幼児期や少年期前期の発育発達がその後にどのような影響を及ぼすか検証を行っている。

【共同研究希望テーマ・分野】

テーマ：子どもの心身の発育発達に関わった研究

子どもの体力、運動能力、活動量、生活習慣に関わった研究を行っている。そのため、実際に子ども同士や親子が身体を動かすことができる施設、子どもの健康や体力に関連したアンケート調査を行うことができる機関、そして教育・保育関係の方との共同研究を希望している。もちろん、運動遊び・親子体操の指導だけでなく、それらの結果をフィードバックする体制も整っている。

【キーワード】

◉運動遊び　◉測定・評価　◉体力・運動能力　◉縦断的調査　◉幼少年期

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymmygkyyggy

短期大学部

社会福祉学科

横山　さつき　　YOKOYAMA Satsuki　　（社会福祉学科）教授

【研究テーマと内容】

テーマ：①介護従事者による高齢者虐待・不適切ケア防止

②介護従事者のストレスマネジメント

③介護におけるアクティビティ・ケア（ドッグ・ケアセラピー、リフレクソロジー）

④介護支援機器の開発および介護現場への導入・活用の促進

介護従事者による高齢者虐待を含む不適切ケアの発生・防止要因を多面的・包括的に検討し、「介護従事者による高齢者虐待を防止するためには不適切ケアに対する共通認識をもち、専門的知識・技術に裏づけられた高い倫理観の醸成と併せて職業性ストレスに対応すべく高次元のセルフコントロール能力を身につけることを支援する理論的・体系的な教育システムの確立が必要である」との考えの基に、有効な教育プログラムの開発を目指している。また、近年、介護施設での質の高い個別ケアの実現に向け注目されつつある「アクティビティ・ケア」や「介護ロボットを含む介護支援機器等の開発・活用促進」に焦点をあてた実践研究をしている。

【共同研究希望テーマ・分野】

「介護職員による不適切ケア防止」・介護福祉

「アクティビティ・ケア（各種セラピー）による介護予防」・介護福祉

「介護支援機器の開発」・介護福祉

【キーワード】

◉介護職員　◉高齢者虐待防止　◉ストレスマネジメント　◉セラピー　◉介護支援機器

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymikgkgdggy

高野　晃伸　　TAKANO Akinobu　　（社会福祉学科）教授

【研究テーマと内容】

① デジタル工作技術を介護の質向上に活かす「高度介護人材育成プラットフォーム」の構築

3D プリンタ等のデジタル工作技術を、介護分野での福祉用具作成に活用できる介護専門職の養成を目的とし、そのための実践的教育プログラムの開発と効果的な実施を促す体制（プラットフォーム）の構築を目指す研究。

② 障がい者の地域移行とグループホームの可能性についての研究

行政が障害者福祉計画で掲げている長期入院者や施設入所者の地域移行について、現場の現状を確認すると共に、受け皿の一つになる可能性があるグループホームの役割と可能性を探ることを目的とした研究。

③ 介護支援機器を活用した介護技術教育に関する研究

介護現場で活用されている介護支援機器の現状と課題を把握し、介護福祉士養成校で教授する教育内容を構築する研究。

【共同研究希望テーマ・分野】

・「3D プリンタ等のデジタル工作技術を活かした、介護分野での福祉用具作成」

・「障がい者の地域移行についての現状把握とグループホームに対するニーズ調査」

【キーワード】

◉3D プリンタ　◉自助具開発　◉介護支援機器　◉障がい者の地域移行　◉グループホーム

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdegiymggy

後藤　裕子　　GOTO Yuko　　（社会福祉学科）准教授

【研究テーマと内容】

テーマ：介護福祉教育に関する研究

内　容：介護福祉士養成課程における教育方法について、介護過程、コミュニケーション技術などの取り組みに対する学習効果について学生への質問紙を中心に研究をしてきました。今後は、介護福祉士を目指し学ぶ留学生に必要な学習支援や、留学生の学ぶ環境についての課題についても取り組んでいきたいと考えています。

【キーワード】

◉介護福祉教育　◉留学生　◉学習支援

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000224

海老　諭香　　EBI Yuka　　（社会福祉学科）准教授

【研究テーマと内容】

１．高齢者の日常行動の安心・安全を維持するプログラムの開発

高齢者支援の研究では、言語による行動調整と転倒予防を中心に取り組んでいる。言語と行動の関連性を解明し、高齢者が活動時に注目すべき点や介護者が適切に声をかけるタイミングを明確化することを目指している。転倒事故防止も重要な課題であり、実態調査と予防策の検討を進めている。これらを統合し、高齢者が安心して生活できる環境を構築する研究を行っている。

２．介護福祉施設におけるリスクマネジメント

介護福祉施設の利用者の安全確保では、リスクマネジメントが重要である。転倒、転落、誤嚥、感染症などの多様なリスクを体系的に管理し、事故を未然に防ぐことを目指している。施設の信頼性向上や職員の負担軽減にも寄与する研究を行っている。

【共同研究希望テーマ・分野】

「高齢者の転倒予防」・介護福祉施設のリスクマネジメント

【キーワード】

◉高齢者　◉転倒予防　◉行動調整　◉リスクマネジメント

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?kyoinId=ymdegsgkggy

桝井　彩喜恵　　MASUI Sakie　　（社会福祉学科）准教授

【研究テーマと内容】

① 認知症高齢者の共同生活介護支援に関する研究

認知症高齢者のグループホームにおいて介護保険制度開始当初から重視されてきた支援に注目し、支援の実態と今後のあり方について検討した。今後は、事業所による支援の違いやその要因・要素について明らかにしていく。

② 介護支援機器の導入・活用に関する研究

「介護リフト」に焦点をあてて教育方法を検討している。

③ レクリエーション活動が高齢者や介護を学ぶ学生に与える影響について

実習を通して余暇時間の過ごし方について関心を持つ学生がいることから、レクリエーション活動が与える影響について考察するとともに、学生が実習や地域活動で実践する力をつけるための方法について検討していく。

【共同研究希望テーマ・分野】

施設や地域における認知症ケア」・介護福祉

「介護リフトの活用」・介護福祉

「施設や地域におけるレクリエーション活動」・介護福祉

【キーワード】

◉認知症対応型共同生活介護　◉認知症ケア　◉介護リフト　◉レクリエーション　◉住み慣れた地域

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000246

吉藤　郁　　YOSHIFUJI Iku　　（社会福祉学科）講師

【研究テーマと内容】

①職業訓練生における介護福祉士養成校での学びの意義

介護福祉士養成校における職業訓練生の入学に至る経緯、その際の意思決定の在り方、今後の就業に対する考え方を探索的に明らかにし、介護福祉士養成校としての支援のあり方を探る。

②地域における生活支援を実践的に学ぶ介護実習の在り方

新しい教育課程では、介護実習に含むべき事項として、「地域における生活支援の実践」が追加された。それぞれの養成校・実習施設が、利用者の生活と地域との関わり、地域と施設・機関の役割の理解のために、どのような準備や実習プログラムを展開しているのか明らかにし、地域における生活支援と介護福祉士養成教育の在り方について探る。

【共同研究希望テーマ・分野】

①介護福祉士養成校における多様な学生に対するキャリア支援

②介護福祉士養成施設における実習教育

【キーワード】

◉介護福祉士教育　◉職業訓練性　◉キャリア支援　◉実習　◉地域

https://www.acoffice.jp/cguhp/KgApp?resId=S000246

留学生別科

西澤　萌希　　NISHIZAWA Moeki　（留学生別科）助教

【研究テーマと内容】

① 日本語自称詞と人物像の結びつきについての研究

日本語は多様な自称詞（「ボク」「オレ」の他、「お父さん」や「先生」など）を持つ点で、特徴的な言語とされています。しかし、その分、話すときに自称詞の選択に迫られる言語でもあります。私は、自称詞を選択するときにその自称詞がどのような人物像と結びつくのか（例えば「オレ」はかっこいい人と結びつくのか、それとも粗野な人と結びつくのか）が想定されていると考えています。日本語に達者な話者は自称詞の選択に慣れているかもしれませんが、これから日本語を使って表現していく子どもたちや日本語学習者はそうではありません。そのため、日本語の自称詞と人物像の結びつきがどのようなものなのかを分析し、体系的にまとめることを目指しております。

③　自己表現の力をつけることを目指したコミュニケーション教育実践の研究

ことばが人物像と結びつくということを活かしながら、子どもたちや日本語学習者がよりよい自己表現の力をつけることができる授業とはどのようなものか、研究しています。国語科教育、日本語教育のそれぞれを対象に考えています。

【共同研究希望テーマ・分野】

・自己表現の力をつけることを目指したコミュニケーション教育実践の研究（国語科教育、日本語教育問わず）
・「言葉づかい」に注目した国語科の授業実践に関する研究（4 技能問わず）

【キーワード】

◉言葉づかい　◉ことばと人物像の結びつき（キャラ）　◉ 日本語教育　◉国語科教育
◉コミュニケーション

https://researchmap.jp/moeki

地域連携推進センター

野方　円　　NOKATA Madoka　（地域連携推進センター）コーディネーター/准教授

【研究テーマと内容】

2007～2022 年度までの間，主に介護福祉士・社会福祉士養成に関わってきました．途中，高齢者福祉施設のマネジメント業務にも関わりました．その間，地域活動にも関わり，地域特性の分析を基に，その地域の『強み』の発掘にも取り組みました．それらの経験を活かし，近年では，ライフ・キャリア支援に関する活動も増加しております．

研究としては，福祉施設の『タレント・マネジメント』を中心に，組織づくり，職員の方の技能開発を行っています．それらを通して，各人の『内省』を促進し，『自己理解』を深め，より良いキャリア形成への展開方法について検討しています．

【共同研究希望テーマ・分野】

・福祉施設職員に対するキャリア支援（特に，自己理解の促進を中心に）
・福祉施設等における『タレント・マネジメント』
・福祉施設等における情報通信技術等の活用による経営改善

【キーワード】

◉福祉施設（法人）経営　◉タレント・マネジメント　◉情報科学

https://researchmap.jp/nokata_madoka

この「教員・研究紹介」は産官学連携・地域連携の推進を目的に、

研究内容等を寄稿した教員について掲載しています。

全教員の業績は、ホームページ「教員紹介」をご覧ください。

https://www.chubu-gu.ac.jp/teachers/

本件についてのお問合せ先

中部学院大学・中部学院大学短期大学部

地域連携推進センター（地域・産学連携課）

〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目１番地

TEL：0575-46-7158

FAX：0575-24-9432

E-mail：chiiki@chubu-gu.ac.jp